

アフリカにおける民族

—ケニアにおける事例研究—

青山学院大学 服部浩昌

1 目的

本報告の目的は、ケニアの民族について書かれた文献の記述を収集・分類・整理し、それらを実証的なデータを用いて確認 (confirmation) することを通じて、今後の研究の方向を示唆することである。安田三郎は「『命題の累積』 (安田 1980)、『法則の定立』 (安田 1975) をもって科学としての社会学の務め」 (海野 1991) と考えた。本稿では、ケニアの事例を用いて個々の記述 (命題) を実証的なデータで確認し、確認された結果をもとに、できるかぎり多くの仮説をたてることをこころみる。新たな仮説を導き出し、今後の研究を示唆することを通じて、「法則の定立」に向けた社会科学の知の蓄積に貢献していくことを目指す。

2 方法

本報告では、(A) ポール・コリアー (甘糟智子訳) 『民主主義がアフリカ経済を殺す』日経 BP 社、2010 年、(B) 津田みわ「暴力化した『キクユ嫌い』—ケニア 2007 年総選挙後の混乱と複数政党制政治—」『地域研究』Vol.9 No.1、昭和堂、2009 年、(C) 戸田真紀子『アフリカと政治 紛争と貧困とジェンダー』お茶の水書房、2008 年、の 3 つの文献を用いた。ケニアの民族について書かれた文献から記述 (命題) を京大型カード (梅棹 1969) に書き出し、KJ 法的方法 (真鍋 1984) を用いて記述を分類し整理した。文献の記述は、2009 年に行われたケニア共和国の「国勢調査」と、ケニアで行われた「アフロバロメーター」のデータを用いて確認し、確認された結果をめぐって仮説を展開するという方法をとった。

3 結果

記述を分類した結果、記述はいくつかのグループに整理された。「民族の分類」「民族の数」「民族別の人口」「民族の州別の人口」「民族と出身地」「民族と言語」「信仰している宗教と人口」である。たとえばここでは「民族別の人口」に限って説明すると以下ようになる。「民族別の人口」の記述につきのものがある。「いまでも最大の規模をもつ民族はキクユ人 (人口の約 2 割) (文献 B)」。民族別の人口に対応する調査項目として国勢調査がある。結果は、キクユ人の人口は 6,622,576 人であり、これはケニアの人口 38,610,097 人の 17.2% である。

4 結論

筆者の現地での滞在の体験では、中央省庁では事務次官や局長などの比較的地位の高いキクユ人の行政官が多く、ケニアの全国各地でキクユ人の実業家を見かけるなど、キクユ人はケニアの中では目立った (salient) な存在であった。そのためキクユ人はケニアの民族の中で人口が多く、人口の 3 割くらいいるものと思っていた。キクユ人は人口比では 17.2% である。キクユ人はケニアの民族の中では割合がもっとも高いが、現地に滞在していたときの筆者の印象からすると、その割合は低い。

文献

梅棹忠夫、1969、『知的生産の技術』岩波新書、川喜田二郎、1967、『発想法』中央公論社、真鍋一史、1984、「日本人論の内容分析—日本人論の検証のための準備作業」『市民意識の研究』21 世紀ひょうご創造協会、安田三郎、1980、「ウェーバー行為論の解釈と批判：『社会学の根本概念』コメンタール I」『社会学部紀要』40、関西学院大学、安田三郎、1975、「『社会調査』と調査者—被調査者関係」福武直『福武直著作集第 2 巻』東京大学出版会、海野道郎、1991、「安田三郎における社会学の方法」『理論と方法』6(1)